

千葉 悠志 准教授
博士(地域研究)

Yushi Chiba

✉ yushi.chiba@komatsu-u.ac.jp

研究
Keyword

地域研究、国際関係論、政治学、中東・イスラーム、メディア研究

プロフィール

2013年 京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 5年一貫制博士課程 修了

2013年 日本学術振興会 特別研究員

2016年 京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 特任助教

2016年 早稲田大学 イスラーム地域研究機構 研究助手

2018年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 准教授

研究分野

中東地域研究、メディア研究、政治学

所属学会

日本中東学会、日本メディア学会、日本国際政治学会、英国中東学会 (BRISMES)

専門分野・研究分野

国際社会の縮図としての中東

21世紀の中東は、あたかも激動の時代を迎えたかのようである。2001年の米同時多発テロ事件に始まり、アフガニスタンとイラクでの戦争、また「アラブの春」と呼ばれる一連の政治騒乱、さらにそこから生じたシリア・イエメン・リビアの内戦や、ISに象徴される過激派組織の跋扈、そしてそれらの帰結としての大量難民の発生、等々。こうした中東地域の政治社会状況を、歴史的な背景を踏まえて冷静に分析することが中東研究者としての課題であると考えている。なかでも、政治社会的動向と密接な関係にある中東のメディアを対象に、地域研究、メディア研究、政治学を横断しながら研究を進めている。

研究内容

中東メディアの存立構造を問い、
その政治社会への影響を考える

20世紀半ば以降の中東地域における、メディアと政治社会との動態の関係についての研究を行っている。例えば、日本では中東のメディアというとカタールの衛星放送局アル・ジャズィーラが知られている。カタールという小国で、なぜこうした革新的な放送局が登場したのか。また、それが翻って同国の政治や、さらには中東の政治全体にいかなる影響を及ぼしているのか。メディアは、それが置かれた国や地域の政治社会構造に深く埋め込まれていると同時に、政治社会構造自体の変容を促す存在でもある。中東メディアの存立構造を問うことは、中東の政治社会を理解することにほかならず、またその政治社会への影響を考えることで、変わりゆく中東の姿を捉えることが可能になると考えている。



図1. エジプトの街並みとパラボラアンテナ

図2. チュニジアにおける
イスラーム政党支持者のデモ激動の中東から
世界を眺める

シーズ・地域連携テーマ例

- 中東地域の政治社会
- 国際メディアの動向
- イスラーム世界と日本

受賞

- 第5回内川芳美記念マス・コミュニケーション学会賞 (2015年6月)

論文

- 「アラブ革命」の余燼——政治変動を前後とした中東メディアの変容、千葉悠志、マス・コミュニケーション研究、94、151-168、2019年。
- 中東における報道統制——近年の動向と統制方法の多様化に着目して、千葉悠志、中東研究、535、3-13、2019年。

書籍等出版物

- (単著) 千葉悠志『現代アラブ・メディア——越境するラジオから衛星テレビへ』ナカニシヤ出版、2014年。
- (共編著) 千葉悠志・安田慎(編)『現代中東における宗教・メディア・ネットワーク——イスラームのゆくえ』春風社、2021年。
- (分担執筆) 千葉悠志「メディアでつながる人びと——共同体意識の変容」西尾哲夫・東長靖(編)『中東・イスラーム世界への30の扉』ミネルヴァ書房、2021年。
- (分担執筆) 千葉悠志「湾岸系放送局の歴史と構造——政治との関係性に着目して」近藤洋平(編)『アラビア半島の歴史・文化・社会』東京大学中東地域研究センター、2021年。
- (分担執筆) 千葉悠志「多文化主義——レバノンにおけるメディアの発達と分極化の進展」中村覚(監修)末近浩太(編)『シリア・レバノン・イラク・イラン(シリーズ・中東政治研究の最前線2)』ミネルヴァ書房、2021年。
- (分担執筆) 千葉悠志「宗派問題のメディア的基層——画期としての衛星放送時代」酒井啓子(編)『現代中東の宗派問題——政治対立の「宗派化」と「新冷戦」』晃洋書房、2019年。

講演・口頭発表等

- 千葉悠志「理論と場——メディア研究の理論とその脱西欧化をめぐる議論」日本マス・コミュニケーション学会 2021年度秋季大会、2021年11月06日

競争的資金等の研究課題

- 日本学術振興会・若手研究「高度情報化時代に適応する権威主義国家——湾岸産油諸国の事例から」、研究代表者、課題番号：19K20527、2019年4月～現在に至る。